

指定管理者モニタリング評価シート

評価対象年度：	令和 7 年度
施設所管課：	文化振興 課

1 施設の概要

施設名	唐津市旧高取邸	所在地	唐津市北城内5番40号
設置目的	文化財保護法（昭和25年法律第214号）第27条第1項の規定により重要文化財に指定された旧高取家住宅を後世に伝えるとともに、旧高取家住宅に残された歴史資料及び民俗資料の保存及び活用を図り、もって郷土を愛するひとづくり及び市民文化の向上に資するため、唐津市旧高取邸を設置するもの。		
休館日	月曜日（祝日の場合は翌日） 12月29日から1月3日まで	開館時間	午前9時30分から午後5時まで

2 施設の利用状況

説明	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	利用状況の傾向と増減の要因
入館者数	14,170 人	16,579 人	16,873 人	18,226 人	新型コロナが収束に向かい客足が伸びた。とりわけ団体客の増加。海外クルーズ船の入港。
事業参加者数	136 人	63 人	4,243 人	6,160 人	缶バッジ配布、琴演奏、茶席事業、掛け軸展、春の見学会実施のため

3 指定管理者の概要

指定管理者	名称	公益財団法人唐津市文化事業団			
	所在地	唐津市西城内5番26号			
	代表者	理事長 今村 繁 公			
指定期間		令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 9 年 3 月 31 日			
指定管理者の業務内容		・唐津市旧高取邸の利用の許可に関する業務 ・唐津市旧高取邸の施設及び設備の維持管理に関する業務 ・その他、市長が必要と認める業務			
事業の実施状況		・唐津市旧高取邸の利用の許可に関する業務を実施した。 ・唐津市旧高取邸の施設及び設備の維持管理に関する業務を実施した。 ・その他、本事業団主催の自主事業を下記のとおり実施した。 缶バッジ配布、琴演奏、茶席事業、掛け軸展、春の見学会、スタンプラリー			
職員の配置状況	常勤 正規職員、フルタイム等	非常勤 嘱託・臨時職員、パート等		常勤の内訳	
	2 人	5 人		事務員2人	

4 指定業務の収支状況 ※仕様書や協定書に記載された業務

単位：円

	令和7年度 決算額	令和6年度 決算額	増減額
収 入	46,626,724	43,262,596	3,364,128
指定管理料	46,609,000	43,258,000	3,351,000
利用料金収入 ※利用料金制の場合のみ			
その他収入	17,724	4,596	13,128
支 出	46,440,010	42,780,041	3,659,969
人件費	25,087,717	25,024,432	63,285
施設管理費	21,352,293	17,755,609	3,596,684
光熱水費	1,044,295	958,067	86,228
修繕費	1,141,800	215,844	925,956
広告宣伝費	0	0	
委託料（再委託）	13,796,145	11,900,326	1,895,819
保険料	46,950	48,109	-1,159
事務費	5,323,103	4,633,263	689,840
施設使用料			
その他支出			
収支	186,714	482,555	-295,841
利益配分額	93,357	241,277	

5 自主事業の収支状況 ※行政サービス向上のため、自主的に行う事業

単位：円

	令和7年度 決算額	令和6年度 決算額	増減額
収 入	455,061	484,912	-29,851
参加料	0	9,000	-9,000
売店売上	441,600	444,700	-3,100
自動販売機売上	13,461	31,212	-17,751
支 出	581,900	375,320	206,580
自主事業費	60,340	100,308	-39,968
商品仕入	355,250	0	355,250
事務費	166,310	275,012	-108,702
収支	-126,839	109,592	-236,431

6 項目別評価

評 価 項 目		評価の根拠 (確認資料等)	自己 評価	市の 評価
評 価 の 視 点				
1 業務の履行状況				
(1) 運営業務（全般）				
①運営管理	条例、協定書等に従い、開館日、開館時間等を遵守しているか。	事業報告書	適	適
	使用料または利用料金の徴収、減免手続き等を適切に行っているか。	納入通知書、 減免許可書、 実地調査	適	適
	施設の利用者数、稼働率を適切に管理しているか。	利用状況報告書	適	適
②人員体制	施設の管理運営に必要な資格、経験等を有する人員が過不足なく配置されているか。	事業報告書	適	適
	従業員の労働条件は適正であるか。	労働条件等確認シート	適	適
	従業員の資質向上のための指導、研修等を適切に実施しているか。	朝礼、 企画会議綴、 ワーキング委員会綴	A	B
③管理記録	業務日誌等を適切に記録し、保管しているか。	業務日誌、 業務完了報告書	適	適
④連絡調整	協定書等に定めた各種報告書を、期限内に市に提出しているか。	利用状況報告書	適	適
	市や関係団体等との連絡調整を適切に行っているか。	企画会議綴、 ワーキング委員会綴	適	適
⑤危機管理	基本協定に定めるリスク分担に従い、適切な対応を行っているか。	事業計画書、 実地調査	適	適
	緊急時に直ちに措置を講じ、市に報告を行ったか。	指定管理者関係綴	適	適
	緊急時の連絡体制、マニュアルを整備し、定期的に研修、訓練等を行っているか。	消防関係綴	A	A
⑥個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守しているか。	事業計画書、 事業報告書、 実地調査	適	適
	施設利用者等の個人情報の漏洩、滅失等の事故防止策を講じているか。	事業計画書、 事業報告書	適	適
(2) 維持管理業務				
①維持管理	省エネルギー、省資源など環境への配慮がなされているか。	事業計画書、 事業報告書、 実地調査	適	適
	施設や設備、備品等の保守管理（点検や修繕等）を適切に行っているか。	管理運営費綴、備品台帳	A	B
	清掃、警備、衛生管理その他施設管理に必要な業務を適切に行っているか。	管理運営費綴、 業務完了報告書	A	B
②再委託	再委託にあたり、事前に契約方法及び契約事項を市に報告しているか。	指定管理者関係綴	適	適
	再委託先からの業務報告を受けるなど、履行状況を適切に管理しているか。	業務日誌、 業務完了報告書	適	適

2 サービスの質				
(1) 運営業務（利用者対応、情報発信等）				
①利用者対応	施設利用者に対して、設備、備品等を適切に提供しているか。	利用状況報告書	適	適
	施設の利用許可、案内等を迅速かつ適切に対応しているか。	実地調査	適	適
	施設利用者への言葉使い、態度、服装等、接遇が適切であるか。	実地調査	適	適
②苦情等対応	要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告しているか。	企画会議級、ワーキング委員会級	適	適
	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応しているか。	事業報告書	A	B
③利用者アンケート	適切な利用者アンケート調査を実施し、その結果が良好であるか。	アンケート調査級	A	A
	利用者アンケートの結果に基づき、適切な改善策を講じているか。	アンケート調査級	A	B
④施設の利用状況	施設の利用者数、稼働率等に関する目標を達成しているか。	事業報告書	A	B
⑤情報発信	利用者の利便性向上のため、ホームページ等の更新、管理を適切に行っているか。	実地調査	適	適
	各種媒体を利用し、事業、イベントの開催案内等の広報を適切に行っているか。	実地調査	A	B
(2) 事業実施状況				
①事業実施状況	事業計画に定めた事業を適切に実施しているか。	事業計画書、事業報告書	適	適
	施設の設置目的に沿った自主事業を実施し、市民サービスの向上が図られたか。	事業計画書、事業報告書	A	B
(3) 地域貢献				
①地域貢献	地元雇用を積極的に行っているか。	事業報告書	適	適
	地域の意向に沿った運営や、地域活動への参加・協力を行っているか。	企画会議級、ワーキング委員会級	A	B
	地元事業者からの物品調達など、地元を活用した運営がなされているか。	会計帳簿、管理運営費級	A	A
3 継続性・安定性				
(1) 運営業務（経理事務、予算執行等）				
①経理事務	専用口座、帳簿等を備え、指定管理業務に係る経理区分が明確に整理されているか。	会計帳簿	適	適
②予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行しているか。	事業報告書 決算書	適	適
③取引状況	取引先等の関係業者との関係は良好であるか。	管理運営費級	適	適
(2) 収支状況				
①経費縮減	施設の管理運営に係る経費が縮減されているか。（経費削減に努めているか。）	事業報告書 決算書	B	B
②収入増加	収入増加のための取り組みがなされているか。	事業報告書 決算書	B	B
③収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当であるか。（目標を達成しているか。）	事業報告書 決算書	B	B

※ 上記の評価項目、評価の視点は標準的なものであり、施設の特性に応じて調整（追加、削除）を行うこととする。

6 総括評価及び総合評価

総括評価	1 業務の履行状況	B	指定管理者の管理運営に対する評価・コメント
	2 サービスの質	B	
	3 継続性・安定性	B	
総合評価		B	国指定重要文化財である当施設を日頃から点検を行い、補修箇所や修繕が必要な箇所について所管課や文化財保護所管課との連携に努められている。また、当施設が国重文であることを市民や観光客にアピールすることで、入館者数も徐々に増加しており、他観光文化施設とも連携を深めさらなる集客PR策を期待したい。